

2025年度
がん対策施策報告書

2026年 6月
和歌山県

目 次

I	これまでの経緯.....	1
II	2025年度のがん対策の推進に関し県が講じた施策.....	4
1	科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実.....	6
	（1）がんの1次予防.....	6
	（2）がんの2次予防（がん検診）.....	8
2	患者本位で持続可能ながん医療の提供.....	11
	（1）がんの医療提供体制等.....	11
	（2）希少がん及び難治性がん対策.....	16
	（3）小児がん及びAYA世代のがん対策.....	16
3	がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築.....	17
	（1）相談支援及び情報提供.....	17
	（2）社会連携に基づくがん対策・患者支援.....	20
	（3）がん患者等支援の社会的な問題への対策(サバイバーシップ支援).....	20
	（4）ライフステージに応じた療養環境への支援.....	20
4	これらを支える基盤の整備.....	22
	（1）人材育成の強化.....	22
	（2）がん教育及びがんに関する知識の普及啓発.....	22
	（3）がん登録の利活用の推進.....	24
5	その他.....	26
III	計画に掲げる全体目標の達成状況.....	27
	《参考資料》.....	28

この報告書は、和歌山県がん対策推進条例第31条の規定に基づき、2025年度にがん対策の推進に関し県が講じた施策について取りまとめたものである。

【参考】和歌山県がん対策推進条例（抜粋）

（年次報告）

第31条 知事は、和歌山県がん対策推進計画に基づく施策について、毎年、実施状況をとりまとめ、速やかに県議会に報告するとともに、適切な手段を用いて県民に公表する。

I これまでの経緯

- がんは、1981年に日本人の死亡原因の第1位となっており、本県においては1979年以降、死亡原因の第1位となっている。

このような中、2007年4月1日に施行された「がん対策基本法」及び同法に基づく「がん対策推進基本計画」の基本理念を踏まえ、本県では、2008年4月にがん対策基本法に規定される都道府県計画として「和歌山県がん対策推進計画」を策定した。

- 2012年12月には、「がん患者を含む全ての県民がいきいきと生活することができる地域社会の実現」、「県民自ら、がんに関する理解と関心を深め、互いに支え合い、力を合わせるにより、みんなで一体となったがん対策の推進」を目指して、「和歌山県がん対策推進条例」が全議員賛成のもと議員提案条例として制定された。

本条例は、基本理念である「七位一体の取組」を定め、行政機関（県・市町村）、県議会、県民、保健医療関係者、教育関係者、事業者の役割を明らかにするとともに、報道関係者と一致協力した連携のもとで、実効性のあるがん対策を総合的にかつ効果的に推進することを目的としている。

- また、2013年4月には、がん教育・普及啓発やがん研究、がん患者の就労を含めた社会的な問題といった新たな課題等を踏まえた「第2次和歌山県がん対策推進計画」を策定した。

当計画では、県条例の基本理念を踏まえ、がん死亡率の減少を全体の目標として、がん患者を県民全体で支え、がん患者ががんと向き合いながら社会生活を続けられるように「がんになっても安心して暮らせる支援体制の構築」を目指すべき方向として定めた。

この基本方針を踏まえた上で、予防、早期発見、教育、医療、がん登録、研究、相談支援及び情報提供、がん患者の就労を含めた社会的な問題について分野別に目標を定め、総合的かつ計画的ながん対策の推進を図ってきたところである。

さらに、計画の策定に併せて、がん対策分野における一層の施策推進を図るため、2013年4月に、福祉保健部健康局健康推進課の「疾病対策班」の名称を「がん・疾病対策班」に変更するとともに、人員を増員し施策の推進体制の強化を図ってきた。

- 2016年12月には、「がん対策基本法」が改正されたことから、2017年3月に「和歌山県がん対策推進条例」についても規定の整備を行った。

- 2018年3月には、これまでの取組や課題を踏まえ、2018年度からの6か年を計画期間とする「第3次和歌山県がん対策推進計画」を策定した。
同計画では、「がんの75歳未満年齢調整死亡率の低減」「科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実」「患者本位のがん医療の実現」「尊厳を持って暮らせる社会の構築」を目標としており、がん予防、がん医療の充実、がんとの共生といった個別分野において、がん対策の総合的な取組を充実させていくこととした。

- 2024年3月には、がん対策のより一層の充実を図るため、2024年度からの6か年を計画期間とする「第4次和歌山県がん対策推進計画」を策定した。
同計画では、全体目標を「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての県民とがんの克服を目指す。」とし、その数値目標として、がんの75歳未満年齢調整死亡率の減少に係る目標値を定めた。また、分野別目標として「科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実」「患者本位で持続可能ながん医療の提供」「がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築」を掲げ、引き続き、総合的ながん対策を推進していくこととした。

〈参考〉

2007年 4月 1日	がん対策基本法施行
2007年 6月15日	国のがん対策推進基本計画（～2012年3月）
2008年 4月 1日	和歌山県がん対策推進計画（～2013年3月）
2012年 6月 8日	国のがん対策推進基本計画（第2期）改定（～2017年3月）
2012年12月28日	和歌山県がん対策推進条例施行
2013年 4月 1日	第2次和歌山県がん対策推進計画（～2018年3月）
2015年12月22日	国のがん対策加速化プラン策定
2016年 1月 1日	がん登録等の推進に関する法律施行
2016年12月16日	がん対策基本法改正
2017年 3月23日	和歌山県がん対策推進条例改正
2018年 3月 9日	国のがん対策推進基本計画（第3期）改定（～2023年3月）
2018年 4月 1日	第3次和歌山県がん対策推進計画（～2024年3月）
2023年 3月28日	国のがん対策推進基本計画（第4期）改定（～2029年3月）
2024年 4月 1日	第4次和歌山県がん対策推進計画（～2030年3月）

Ⅱ 2025年度のがん対策の推進に関し県が講じた施策

	施策分野	主な施策内容
科学的根拠に基づく予防・がん検診の充実	がんの1次予防	<p>○感染対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立保健所及び県内協力医療機関において肝炎ウイルスの検査を実施 ・肝炎や肝がん、重度肝硬変患者に対する医療費助成制度を実施 ・養護教諭や自治体職員等を対象とした研修会、県民向け啓発イベントや県内大学等における周知を通じて、HPVワクチンについての普及啓発を実施 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい食生活や喫煙対策など生活習慣の改善に向けた普及啓発を実施
	がんの2次予防 (がん検診)	<p>○がん検診の受診率向上対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん検診の個別受診勧奨にかかる費用を市町村に補助 ・協会けんぽ等の民間団体と連携し、県内企業に対して職域でのがん検診の取組の重要性を啓発するとともに、協会けんぽの健診制度について周知を実施
患者本位で持続可能ながん医療の提供	がん医療の提供体制等	<p>○医療提供体制の均てん化・集約化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん治療を行う病院における施設の改築や医療機器の整備に対して支援を実施 ・2040年を見据えたがん医療提供体制について検討 ・がん対策への寄附金を活用し、がん先進医療支援事業を実施 <p>○がんゲノム医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんゲノム医療連携病院である県立医大病院及び日赤和歌山医療センターが、がんゲノム医療中核拠点病院と連携して「がんゲノム医療」を実施 <p>○支持療法の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神、身体的なケアを通じてがん治療の質の向上を図る支持療法の必要性を県広報番組等で周知 <p>○妊孕性温存療法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年がん患者に対し、治療前に妊孕性を温存することや、温存後の生殖補助医療に対し助成

がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築	相談支援・ 情報提供	<ul style="list-style-type: none"> 拠点病院、推進病院に設置のがん相談支援センターの運営を支援するとともに、がんネットで情報提供 がん診療病院に対し、がん患者向けの支援制度について説明会を開催
	がん患者が抱える社会的問題への対策 (サバイバーシップ支援)	<p>○就労支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 和歌山労働局など関係機関において、県内企業における治療と仕事の両立支援に関する事例集を作成 医療機関に相談窓口を設置し、治療と仕事の両立支援に係る専門的相談に対応 <p>○アピアランスケア</p> <ul style="list-style-type: none"> 外見上の悩みを解消して生活の質の向上を図るため、アピアランスケア支援事業を実施する県内全市町村を支援
	小児・AYA世代への支援	<ul style="list-style-type: none"> 自宅での療養を希望する若年の末期がん患者に対して、介護費用の一部を助成 小児がん患者の療養生活の質の向上を図るため、入院に付き添う家族の宿泊費用の一部を助成
これらを支える基盤の整備	がん教育	<ul style="list-style-type: none"> 教職員及び外部講師等を対象に県内2か所でがん教育研修会を開催し、模擬授業や事例発表によりモデル的ながん教育の横展開を推進 外部講師（専門医、看護師、がん経験者等）を活用したがん教育のモデル授業を県内の小・中・高等学校で実施 包括連携協定を締結した民間企業と協力し、県内公立高等学校の1年生にがん啓発冊子を配布
	がんに関する知識の普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 包括連携協定締結企業、医大看護学部と連携し、若年層に向けたがん啓発イベントを開催 和歌山大学祭やリレーフォーライフ等の各イベントに出展し、がんに関する支援制度や知識の普及啓発を実施 テレビ、ラジオなどでがん検診の重要性、医療体制、支援制度等について周知 商工会議所や商工会などの商工団体と連携し、団体作成の会報紙などにがんに関する記事を掲載して県内企業や個人へ普及啓発を実施

2025年度に県が講じた施策は、それぞれ次のとおりである。

- 1 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実
がんを知り、がんを予防すること、がん検診による早期発見・早期治療を促すことで、がん罹患率・がん死亡率の減少を目指す。

「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての県民とがんの克服を目指す」ためには、がんを予防する方法を普及啓発するとともに、生活習慣の改善に向けた取組や、発がんに寄与するウイルスや細菌への対策などを進め、がんの罹患率を減少させることが重要である。

また、全ての県民が受診しやすい検診体制を構築し、がんの早期発見・早期治療を促すことで、効率的かつ持続可能ながん対策を進め、がん死亡率の減少を実現することも重要である。

このことから、以下の施策を講じた。

(1) がんの1次予防

＜生活習慣について＞

ア 健康づくりに取り組む企業をさらに広げるため、全国健康保険協会和歌山支部と「わかやま健康づくりチャレンジ運動」事業を共同実施した。さらに、この事業を活用して、従業員の生活習慣病の予防や健康寿命の延伸のために積極的に健康づくりに取り組む事業所に対して、県独自の「わかやま健康推進事業所」の認定を行った。

チャレンジ運動登録事業所数：1,125 社

わかやま健康推進事業所：401 社

イ 野菜摂取量の増加を目的とした啓発用ウエットティッシュを作成し、各二次保健医療圏で配布するとともに、食生活改善推進協議会と連携し、食塩摂取量の減少を目的とした啓発活動を実施した。

ウ 二次保健医療圏の地域・職域連携推進協議会において、出張出前講座を開催し、事業所等において、野菜・果物摂取量の増加、食塩摂取量の減少等の啓発を行った。

エ 乳幼児の保護者、小・中・高校生向けに、栄養、食生活、身体活動・運動、生活習慣病、たばこ、アルコール等について、まんがを用いてわかりやすく解説した健康教育教材冊子「わかやま健康ものがたり」を作成し、健康教育や健診時の保健指導などに活用した。

- オ 健康への正しい理解を目的に、世界禁煙デー（5月31日）や禁煙週間（5月31日～6月6日）に街頭啓発等を各二次保健医療圏で実施した。
- カ 禁煙希望者への情報提供等を目的に、県の健康推進課ホームページで禁煙外来、禁煙サポート薬局の情報提供を実施した。
- キ 学校での教育を目的に、二次保健医療圏の地域・職域連携推進協議会委員が講師となり、小・中・高校生向けに防煙教室を67回実施し、3,642名が受講した。
- ク 喫煙との関わりが指摘されている乳幼児突然死症候群（SIDS）の発症防止のため、妊婦やその家族の禁煙の必要性について、「赤ちゃんとお母さんの健康ガイド」に掲載し、妊婦に情報提供した。また、保健指導の参考とするよう、妊婦及び育児中の両親の喫煙率を含む乳幼児健診必須問診項目の市町村別集計結果を市町村に送付した。
- ケ 受動喫煙等について、食品事業者が参加する講習会や各種講演会、乳幼児健診等で周知を行った。地域・職域連携推進事業の参加者（成人）に対して、リーフレットを配布し、受動喫煙について説明を行った。また、看護師養成所で学生に啓発資料の提供を行った。
- コ 二次保健医療圏の地域・職域連携推進協議会や健康推進員フォローアップ研修会、職域リーダー研修会において、受動喫煙の健康への悪影響等について説明を行った。

＜ 感染症対策について ＞

- ア 県内28市町が肝炎ウイルス検診の個別勧奨を実施している。
また、肝炎ウイルス検査については、各県立保健所及び県内350か所の協力医療機関で、無料で受検できる体制を構築しており、55件実施した。
これらの結果、陽性者に対してウイルス肝炎治療に係る専門医療機関を受診するよう保健所、検査実施医療機関を通じて指導した。
- イ 肝炎の医療費助成制度は、2014年9月から、インターフェロンフリー治療が助成の対象に追加されるなど、対象の拡大が図られている。
受給者証の2025年度交付実績については、インターフェロンフリー治療67件、核酸アナログ製剤治療719件となっている。
また、肝がん・重度肝硬変患者に対する医療費助成制度を2018年12月から開始しており、事業参加者証の2025年度交付実績は28件となっている。

- ウ 肝疾患診療連携拠点病院である和歌山県立医科大学附属病院及び国立病院機構南和歌山医療センターに開設している肝疾患相談支援センターにおいて、肝疾患に関する相談対応、及び公開講座の開催等を実施した。
- エ 成人T細胞白血病（ATL）などの対策のため、県立保健所で希望者に対して無料のHTLV-1（ヒトT細胞白血病ウイルス1型）抗体検査を実施した。
- また、妊婦健診で実施しているHTLV-1抗体検査について、「赤ちゃんとお母さんの健康ガイド」（再掲）に掲載し、市町村を通じて母子健康手帳配布時に妊婦に対して情報提供を実施した。
- オ ヒトパピローマウイルス（HPV）対策のため、市町村において、HPVワクチンの定期接種を実施するほか、国における積極的な勧奨を差し控えることとした取扱いの終了を受け、個別の接種勧奨を2022年4月から再開している。また、積極的な勧奨の差し控えにより接種機会を逃した方に対しては、公平な接種機会を確保する観点から、2022年度から3年間、従来の定期接種の対象年齢を超えて接種を行う「キャッチアップ接種」が実施された。また、キャッチアップ接種期間中に接種を希望する方が接種機会を逃さないよう、2025年3月末までに接種を開始した場合、2025年度も残りの接種回数分の費用を公費で完了できるようにする方針が決定され、2026年3月末まで継続された。
- また、県民向けの啓発イベントや県内大学等における周知のほか、養護教諭や自治体職員等を対象とした研修会を通じて、HPVワクチンについて普及啓発を実施した。

（2）がんの2次予防（がん検診）

〈がん検診の受診率向上対策について〉

- ア 市町村と連携してがん検診の受診率を向上させる目的で、がん検診推進支援事業を実施し、検診対象年齢者に対し、胃がん、肺がん、大腸がん、子宮頸がん、乳がん（以下「5がん」という。）の検診の個別受診勧奨にかかる費用の補助を市町村に対して行った。
- イ がん検診の重要性について、わかりやすく県民に伝えるため、がん検診受診促進啓発まんがを配布した。
- ウ 各地域において、健康推進員を養成し、がん検診受診の必要性について啓発を行った。
- エ 「わかやま健康推進事業所」の認定制度における評価項目として、従業員に対するがん検診の取組を必須項目とすることで従業員へのがん検診の受診を促進した。

オ 職域向けのがん検診啓発チラシ等を新たに作成し、商工会議所や商工会などの経済団体を通じて、チラシを7,030社に配布するとともに、各団体が発行する会報へがんやがん検診に関する記事を掲載し、31,800の企業・個人へ配布して普及啓発を行った。

また、協会けんぽと連携し、県内企業に対して協会けんぽの健診制度の活用を呼び掛けるとともに、協会けんぽ会員約17,000社に対し、がんの知識や職域でのがん検診の取組の重要性を周知した。

カ 包括連携協定を締結した民間企業と協力し、がん検診についての啓発チラシの配布、及びがんに関する正しい知識の啓発を実施した。

キ 包括連携協定を締結した民間企業、及び和歌山県立医科大学と協力し、保健看護学部の学生が主体となって企画した若年層向けのがん啓発イベントを開催し、がん検診の重要性について普及啓発を実施した。

ク 子宮頸がん検診の広域化を希望する市町村が、郡市医師会の協力のもと広域化を実現できるよう、県医師会を通じて郡市医師会に対して働きかけを行った。

〈がん検診の精度管理等について〉

ア 精密検査受診率向上を図るため、県健康推進課ホームページ内「わかやまがんネット」に掲載する精密検査協力医療機関一覧について、更新を行った。

イ 5がんの検診について、各市町村に対し、精密検査プロセス指標等について情報提供を行った。

ウ がん検診のメリット・デメリットや検査方法等をまとめたがん検診説明書を市町村に配布した。

エ 市町村のがん検診担当者に対して研修会を開催した。

開催日：2025年9月1日

場 所：オンライン開催

参加者：59名

オ がん検診従事者の技術向上を目指し、以下の研修会を開催した。

胃がん（内視鏡）検診従事者研修会

開催日：2025年7月26日

場 所：オンライン開催

参加者：93名

大腸がん検診従事者研修会

開催日：2025年8月23日

場 所：オンライン開催

参加者：100名

子宮頸がん検診従事者研修会

開催日：2025年9月20日

場 所：オンライン開催

参加者：42名

肺がん（胸部エックス線）検診従事者研修会

開催日：2025年11月15日

場 所：和歌山県立情報交流センターBig- U

参加者：14名

肺がん（胸部エックス線）検診従事者研修会

開催日：2025年11月16日

場 所：県民交流プラザ 和歌山ビッグ愛

参加者：77名

乳がん検診従事者研修会

開催日：2025年12月7日

場 所：オンライン開催

参加者：24名

カ がん検診の精度管理のため、和歌山市を対象に、がん登録とがん検診の照合事業を実施した。

＜ 科学的根拠に基づくがん検診の実施について ＞

ア 市町村のがん検診担当者に対して研修会を開催し、「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」に基づくがん検診の意義及び必要性について、普及啓発を行った。（再掲）

2 患者本位で持続可能ながん医療の提供

適切な医療を受けられる体制を充実させることで、がん生存率の向上・がん死亡率の減少・全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す。

「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての県民とがんの克服を目指す」ためには、がんゲノム医療をはじめとした高度ながん医療の提供を推進するとともに、患者本位のがん医療を展開することで、がん医療の質を向上させることが重要である。

また、それぞれのがんの特性に応じたがん医療の均てん化・集約化を進め、効率的かつ持続可能ながん医療を提供することで、がん生存率を向上させることも重要である。

さらに、緩和ケア等が適切に提供される体制を整備することで、全てのがん患者及び家族等の療養生活の質を向上させることも大切である。

このことから、以下の施策を講じた。

(1) がんの医療提供体制等

＜医療提供体制の均てん化・集約化について＞

ア がんの医療提供体制については、国の「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針（以下「指針」という。）」に基づき、県に1か所指定された「都道府県がん診療連携拠点病院」、二次保健医療圏に1か所程度指定された「地域がん診療連携拠点病院」（以下これらを「拠点病院」という。）と、県が独自に定めた基準に基づき指定した「和歌山県がん診療連携推進病院」（以下「推進病院」という。）を中心として、質の高いがん医療の提供体制の確立に取り組んでいる。

2022年8月には、国の指針の改正により、拠点病院の指定要件が強化された。

2024年4月を始期とする「第八次和歌山県保健医療計画」においては、拠点病院及び推進病院がない有田医療圏の現状を踏まえ、がん医療圏の見直しを行い、和歌山医療圏と有田医療圏を一つのがん医療圏とした。

「和歌山・有田医療圏」として両医療圏の連携を明確にし、広域で地域のがん医療を支える体制を構築することとした。

2025年8月発出の国通知「2040年を見据えたがん医療提供体制の均てん化・集約化に係る基本的な考え方及び検討の進め方について」を受け、

県がん診療連携協議会において、がん医療提供体制の均てん化・集約化について議論を開始した。

県内の拠点病院及び推進病院において、以下の施策を実施した。

(ア) 拠点病院が実施する専門的な医師等の育成のための薬物療法や放射線療法、緩和ケアやがん登録等に関わる専門的な医療従事者の養成について支援を実施した。

(イ) 県内において指導者的立場を担う医療者を育成するため、国立がん研究センター等で開催された研修会に、拠点病院の医療従事者が参加した。

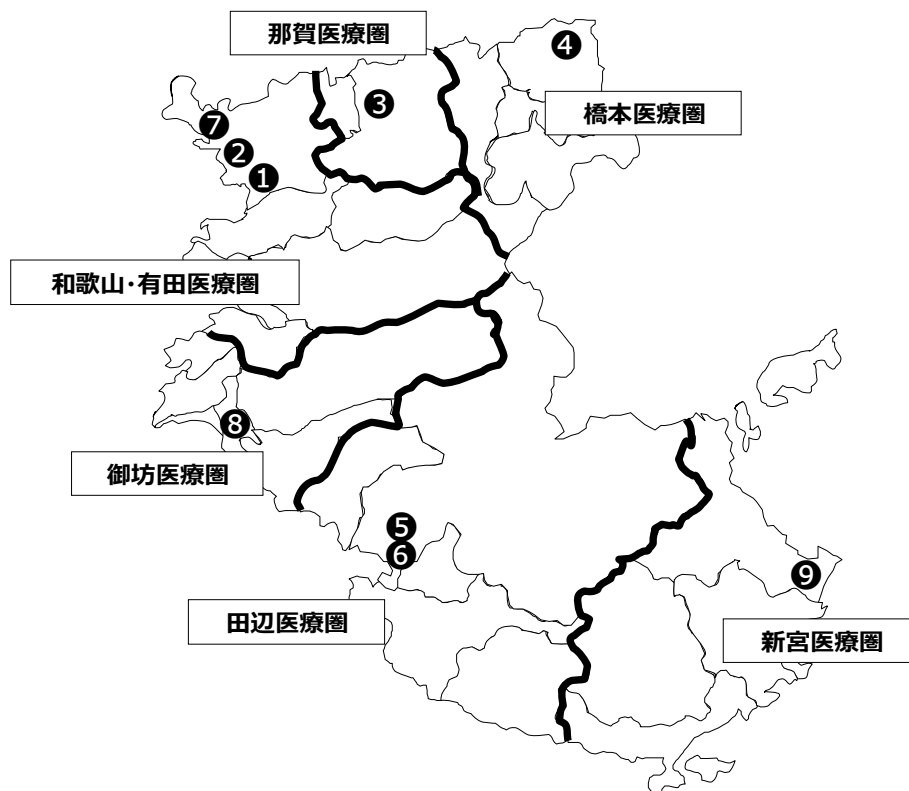
(ウ) 推進病院が実施する緩和ケア研修会の開催や相談体制の充実等について支援を実施した。

イ がん治療を行う病院における医療機器の整備に対して支援を実施した。

〈県内のがん診療連携拠点病院・がん診療連携推進病院〉

(2026年3月31日現在)

がん医療圏	医療機関名
都道府県がん診療連携拠点病院	
和歌山・有田	①和歌山県立医科大学附属病院
地域がん診療連携拠点病院	
和歌山・有田	②日本赤十字社和歌山医療センター
那賀	③公立那賀病院
橋本	④橋本市民病院
田辺	⑤紀南病院
	⑥南和歌山医療センター
和歌山県がん診療連携推進病院	
和歌山・有田	⑦和歌山労災病院
御坊	⑧ひだか病院
新宮	⑨新宮市立医療センター



＜がんゲノム医療について＞

ア がん患者の遺伝子変異を解析することで、個人ごとの違いを考慮したより効率的・効果的な診断と治療を行う医療である、「がんゲノム医療」について、本県では、2018年4月に県立医科大学附属病院及び日本赤十字社和歌山医療センターが「がんゲノム医療連携病院」に指定されており、がんゲノム医療中核拠点病院と連携してがんゲノム医療を実施した。

＜手術療法・放射線療法・薬物療法等について＞

ア 県のがん対策に役立てて欲しいと、2014年度に海南市在住（当時）の県民の方から頂いた寄附金をもとに創設した、がんの先進医療を受ける患者に対して、その治療費（技術料）の補助を行うがん先進医療支援事業を引き続き実施した。

イ 白血病、悪性リンパ腫等の血液疾患に対して行われる治療のひとつである造血幹細胞移植に関し、以下の施策を実施した。

（ア）2025年12月に和歌山県造血幹細胞移植推進懇話会を開催し、県の造血幹細胞移植への取組や、骨髄バンク及びさい帯血バンクの現状と課題について、意見交換等を行った。

（イ）骨髄提供希望者の登録機会を増やすため、以下の施策を実施した結果、2025年4月～2026年3月末まででは、187名の登録があった。

a 献血併行型登録会を71回（内、休日実施は16回）実施し、169名が登録した。

b 各県立保健所（支所）、献血バス単独及び土日祝日に対応可能な和歌山駅前献血ルームに設置された骨髄バンクドナー登録窓口等により18名が登録した。

（ウ）若年層のドナー登録推進のため、県内大学等で献血併行型登録会を15回実施した。

（エ）さい帯血採取施設の設置に関して、県内の産科施設へ働きかけを行い、現在4施設が設置されている。2025年4月～2026年3月末までの採取件数は、1,052件であった。

＜支持療法の推進について＞

ア 本県で開催された第10回日本がんサポーターシップケア学会において、支持療法に関連する本県の各種施策を紹介するとともに、きのくに21の特集を通じ、県民に対して支持療法の必要性について周知した。

＜ がんと診断された時からの緩和ケアの推進について ＞

ア 緩和ケアの推進には、がん診療に携わる全ての医療従事者が、緩和ケアの基本的な知識と技術を習得することが重要である。そのため、がんによる身体的、精神的な痛みやその対応、インフォームドコンセントやセカンドオピニオン等の説明、患者の視点を取り入れたコミュニケーション技術等を学ぶ緩和ケア研修会について、拠点病院、推進病院で、研修会を6回開催し、医師127名、医師以外の医療従事者26名が修了した。

2025年度末での累計修了者数は3,332名（医師2,252名、医師以外の医療従事者1,080名）となった。

イ 早期から緩和ケアを提供するため、拠点病院や推進病院等を中心にがん患者を対象とした「苦痛のスクリーニング」を実施した。

ウ 県がん診療連携協議会において、エンド・オブ・ライフ・ケア（人が人生を終える時期に必要とされるケア）に携わる看護師が患者・家族に必要なケアを包括的に学ぶ、ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム研修会を開催し、40名が参加した。

エ 県内の緩和ケアチーム等についてPDCAサイクルを活用した質の向上を図るため、県がん診療連携協議会において、「きのくに緩和ケアPDCAフォーラム」を開催し、4病院17名が参加した。

オ 県立医科大学において、2025年10月4日と2026年3月14日に在宅緩和ケア会を開催し、地域の緩和ケア医療関係者との連携強化を図った。

カ 緩和ケア提供体制の質の向上を図るため、2025年10月31日に南和歌山医療センターにおいて、県外から外部レビュアーを招聘し、がん診療連携拠点病院の緩和ケア提供体制に対する相互評価であるピアレビューを実施した。

＜ 妊孕性温存療法について ＞

ア 若年がん患者が、がん治療前に卵子や精子の凍結保存を行い、生殖機能を温存することで、将来子どもを産み育てる希望を持ってがん治療に取り組むことができるよう、温存治療に係る費用の助成を行った。

また、2022年度から、国の助成事業の対象が拡大されたことに伴い、温存治療により凍結した検体を用いた生殖補助医療等に係る費用の助成を行った。

2025年度実績：15件

(2) 希少がん及び難治性がん対策

ア 膵がんによる死亡率が全国に比して高い本県の現状に鑑み、2019年9月1日に県立医科大学附属病院において、「膵がんセンター」が開設された。同センターでは、関係部門の連携の下、①早期診断、②切除限界への挑戦、③新たな治療法の取組を3本柱として膵がんの治療成績の向上を図るとともに、患者やその家族、他の医療機関に対するワンストップの相談窓口として迅速な対応を実施している。また、膵がんの早期発見・早期治療に繋げるため、膵がんドックを実施した。

(3) 小児がん及びAYA世代のがん対策

ア 県難病・こども保健相談支援センターにおいて、小児がん患者やその家族が地域で安心して暮らせるよう、療養生活に関する相談や医療・福祉制度、家族会に関する情報の提供を行った。

相談件数：31件（面接9件、電話22件）

イ 標準的治療が確立しており均てん化が可能ながん種について、小児がん拠点病院と同等程度の適切な医療を提供することが可能な医療機関として、県立医科大学附属病院と日本赤十字社和歌山医療センターが「小児がん連携病院」の指定を受けており、和歌山県下全域の医療機関から小児・AYA世代のがん患者の紹介、緊急対応を受け入れるとともに、高度な治療が必要な患者などを小児がん拠点病院等に紹介した。また、地域の医療機関に情報発信を行うなど、地域の小児がん診療に取り組んだ。

3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

がんになっても安心して生活し、尊厳を持って生きることのできる地域共生社会を実現することで、全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す。

「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての県民とがんの克服を目指す」ためには、がん患者やその家族等が住み慣れた地域社会で生活をしていく中で、必要な支援を受けることができる環境を整備することが重要である。

また、医療・福祉・介護・産業保健・就労・教育支援分野等と連携し、効率的な医療・福祉・保健サービスの提供や、就労・教育支援等を行う仕組みを構築することで、社会的な課題を解決し、がん患者及びその家族等の「全人的な苦痛」の緩和を図ることも重要である。

全てのがん患者が、いつでもどこに居ても、安心して生活し、尊厳を持って生きることのできる地域共生社会を実現し、全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質を向上させるため、以下の施策を講じた。

(1) 相談支援及び情報提供

く 相談支援について

ア がん患者やその家族、地域の方々から、がんの治療やセカンドオピニオンをはじめとする、療養生活全般の質問・相談を受けるなど、がんに関する情報提供を行う目的で各拠点病院や推進病院に設置しているがん相談支援センターについて支援した。

イ 「わかやま がんネット」において、がん相談支援センターに関する情報提供を行った。

ウ 和歌山県がん診療連携協議会において、がん相談支援センターの相談員の資質向上を図るため、和歌山県がん相談員研修会「情報支援研修」を開催し、26名が参加した。

開催日：2026年2月14日

場 所：オンライン開催

エ 和歌山県がん診療連携協議会において、がん相談支援センターの相談員及びがん患者サロンを運営するボランティアスタッフの資質向上を図り、がん患者団体等との連携を推進するため、「がん患者サロンネットワーク研修」を開催し、医療従事者11名、ピアサポーター7名、その他4名が参加した。

開催日：2025年12月19日

場 所：オンライン開催

〈和歌山県内のがん相談支援センター〉

機関名	所在地	電話番号	対応日・時間
和歌山県立医科大学 附属病院 がん相談支援センター	和歌山市紀三井寺 811-1	073-441- 0778 (直通)	平日 9時～17時
日本赤十字社 和歌山医療センター がん相談支援センター	和歌山市小松原通 4-20	073-423- 6207 (直通)	平日 9時～17時
公立那賀病院 がん相談支援センター	紀の川市打田 1282	0736-78- 2340 (直通)	平日 8時45分～17時
橋本市民病院 がん相談支援センター	橋本市小峰台 2-8-1	0736-34- 6116 (直通)	平日 9時～17時
紀南病院 がん相談支援センター	田辺市新庄町 46-70	0739-22- 5118 (直通)	平日 8時30分～17時15分
国立病院機構 南和歌山医療センター がん相談支援センター	田辺市たきない町 27-1	0120-92- 8160 (直通)	平日 8時30分～17時15分
和歌山労災病院 患者サポートセンター	和歌山市木ノ本 93-1	073-451- 3181 (代表)	平日 9時～16時30分
ひだか病院 がん相談支援センター	御坊市藪 116-2	0738-24- 1786 (直通)	平日 8時30分～16時
新宮市立医療センター 地域医療連携室	新宮市蜂伏 18-7	0735-31- 3345 (直通)	平日 8時30分～17時

＜ 情報提供について ＞

ア がんについての情報や和歌山県の医療等について、総合的に情報提供を行う「わかやま がんネット」において、がんに関する情報提供を行った。

※「わかやま がんネット」ホームページアドレス

https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/041200/h_sippeigannet/00.html

イ がん患者向けの支援制度を漏れなく案内いただけるよう、県内全てのがん診療連携拠点病院及びがん診療連携推進病院において、がん治療及び相談支援業務に従事する医療関係者に対して事業説明会を開催した。

ウ がんに関する情報等について、県民がより理解を深められるように、県立図書館において以下の施策を実施した。

(ア) 特別コーナーとして設置している「がん」関係図書コーナーにおいて、信頼できる新しいがん情報を提供するため、新旧資料の入替えを行い精査した。随時追加した新刊図書を含めた約 860 冊のがん関係図書やがん専門雑誌、がん関係機関のチラシ及びリーフレットなどにより、県民への情報提供を行った。

(イ) こどもから大人までを対象に、本を通じてがんについての理解を深め、健康に対する意識を高めてもらうことを目的に、「がん」関係図書コーナーにおいて「がん教育」関係図書コーナーを設置し、児童書から一般書まで約 110 冊を選定して提供を行った。

(ウ) がん患者やその家族、医療関係者と一般県民が集まり、がんについての学習や想いを語り合う場を病院外（県立図書館 2 階）に設ける取組として、「図書館いきいきサロン」を開催した。

(エ) がんに関する映画の上映を通して啓発に繋げるため、県立医科大学附属病院と県立図書館の共催で「20 歳のソウル 映画上映会」を開催した。

開催日：2025 年 10 月 4 日

場所：和歌山県立図書館 講義・研修室

(オ) がん患者・家族、県民のための公開講座として、県立医科大学附属病院患者支援センターと県立図書館の共催による講演会「“支える視点”と“生きる覚悟” 医師の夫と患者の妻が向き合った進行がん」を開催した。

開催日：2026 年 1 月 24 日

場所：和歌山県立図書館 講義・研修室

(2) 社会連携に基づくがん対策・患者支援

ア 県立医科大学附属病院において、がん相談支援センターや治療と仕事の両立支援についての案内を記載した広報カード、がん相談支援センターについて書かれた冊子をがんの診断時に各外来で配布するほか、セカンドオピニオンやがんサロンのチラシを院内に掲示する等、来院患者への周知を行った。

(3) がん患者等支援の社会的な問題への対策（サバイバーシップ支援）

〈 就労支援について 〉

ア 和歌山労働局、産業保健総合支援センターが主体となり、就労支援に対して以下の取組を実施した。

(ア) 和歌山労働局において、長期にわたる治療等により離職又は転職を余儀なくされた方で、再就職を希望する方に対して就職支援を行う「長期療養者就職支援事業」を実施し、県立医科大学附属病院、日本赤十字社和歌山医療センター及び那賀病院と連携を図り、がん患者等の就労支援相談を行った。

(イ) がん治療と仕事の両立支援を効果的に進めるため、県下の関係機関と連携を図ることを目的に設置された「和歌山県地域両立支援推進チーム」において、各機関の取組について情報交換を行うとともに、両立支援対策推進計画に基づき、県内事業場等の取組事例集を作成し、関係者、関係機関等に配布、周知を行った。

(ウ) 和歌山産業保健総合支援センターにおいて、事業者等に対し、治療と仕事の両立支援制度の周知を図るとともに、産業医等を対象とした両立支援研修、事業場からの相談、個別訪問支援を行った。

また、労災病院や医療機関に両立支援（出張）相談窓口を設置し、専門的相談に対応した。

〈 アピアランスケアについて 〉

ア がん患者やがん経験者のがん治療に伴う心理的・経済的な負担を軽減するとともに、社会参加を促進し、療養生活の質の向上を図ることを目的に、ウィッグ等の医療用補整具の購入費を助成する市町村を支援する「和歌山県がん患者アピアランスケア支援事業」を実施した。

2025年度実績： 30市町村

(4) ライフステージに応じた療養環境への支援

〈 小児・AYA 世代について 〉

ア 介護保険の対象とならない若年の末期がん患者が、住み慣れた自宅で、自分らしく安心して日常生活を送れるよう、在宅サービス利用料の助成を行った。

2025年度実績：6名

イ 家族の心理的サポートによる小児がん患者の療養生活の質の向上を図るとともに、未成年のがん患者の入院に付き添う家族の身体的・経済的な負担軽減を図るため、当該家族が宿泊施設を利用した場合の費用の一部を支援する事業を開始。

2025年度実績：0名

4 これらを支える基盤の整備

「科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実」「患者本位で持続可能ながん医療の提供」「がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築」の対策を支える基盤の整備を目指す。

「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての県民とがんの克服を目指す」ためには、がん予防、がん医療、がんとの共生に関する対策を推進するとともに、専門的な人材の育成や、がん教育及びがんに関する知識の普及啓発、がん登録の推進等により、これらの対策を支える基盤を整備することが重要である。

このことから、以下の施策を講じた。

(1) 人材育成の強化

ア 県立医科大学附属病院において、病理診断体制の強化を図るために、臨床病理セミナーを2026年2月4日に実施した。

イ がん薬物療法における医療の質的向上を図るため、県がん診療連携協議会において、きのくにがん薬物療法チーム研修会を開催し、医師、薬剤師、看護師の計15名が参加した。

ウ がん専門医療者の充実を目指して、高い専門性と優れた看護実践能力を保有するがん看護専門看護師を目指す看護師が、日本看護協会の認定審査の受験資格を取得できるよう、2014年度に県立医科大学の大学院保健看護学研究科博士前期課程にがん看護専門看護師コースを設置している。2025年度の入学者数は1名であった。

(2) がん教育及びがんに関する知識の普及啓発

ア 県教育委員会において、教職員及び外部講師等を対象に、がん教育の実践に関する研修会を動画（7月から8月まで）で開催するとともに、参集型で印南町（8月）及び田辺市（1月）の2会場において実施した。また、文部科学省及び県教育委員会が作成したスライド資料など、がん教育で使用する教材の活用方法を周知した。さらに、参集型の研修会では、模擬授業や実践発表を実施し、外部講師を活用したがん教育の推進を図った。

イ 外部講師を活用したがん教育を推進するために、モデル校（小学校1校、中学校4校、高等学校2校）において、専門医、看護師及びがん経験者によるがん教育を実施した。

また、外部講師の拡充を目的として、がん患者、経験者の外部講師リストを作成し、各市町村教育委員会及び各公立学校に周知した。

ウ 県内のがん教育の実施状況を把握するため、2月に小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校を対象に調査を行った。来年度、県内のがん教育を充実させるため、調査結果を踏まえた研修を行う予定。

エ 学校での教育を目的に、二次保健医療圏の地域・職域連携推進協議会委員が講師となり、小・中・高校生向けに防煙教室を67回実施し、3,642名が受講した（再掲）。

オ 各学校の実情や児童生徒の発達段階に応じた、喫煙、飲酒防止に関する学習において、身体に及ぼす影響のひとつとして、がんについても取り上げた。

カ こどもから大人までを対象に、本を通じてがんについての理解を深め、健康に対する意識を高めてもらうことを目的に、県立図書館の「がん」関係図書コーナーにおいて「がん教育」関係図書コーナーを設置し、児童書から一般書まで約110冊を選定して提供を行った（再掲）。

キ 県民のがんに対する理解を深める目的で、以下の事業に対して後援を行った。

(ア) 和歌山県立医科大学外科学第2講座市民公開講座

「外科医が伝えたい消化器がん治療の今」

目 的：消化器がんに関する最新の知見、外科治療の役割について一般市民に分かりやすく解説することで、がんに対する理解を深める

開催日：2025年6月21日

場 所：和歌山城ホール

主 催：和歌山県立医科大学外科学第2講座

(イ) リレー・フォー・ライフ・ジャパン2025 わかやま

目 的：がん征圧や、がんを取り巻く環境整備の大切さを、社会と和歌山県民全般に広く訴える

開催日：2025年5月17日～18日

場 所：和歌山城公園砂の丸広場

主 催：公益財団法人日本対がん協会

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2025わかやま実行委員会

(ウ) がん征圧月間

目 的：がんに対する正しい知識とがん検診受診率向上を広くアピールする

期 間：2025年9月1日～9月30日

主 催：公益財団法人和歌山県民総合健診センター
(日本対がん協会和歌山県支部)

(エ) 世界小児がん啓発キャンペーン in 和歌山

目 的：小児がんに対する理解啓発

期 間：2025年9月28日

主 催：和歌山親子のつどい実行委員会

(オ) 「ピンクリボンプレゼント」～未来のわたしに今、できること～

目 的：乳がん検診率向上や健康意識の向上

期 間：2025年10月1日～10月31日(個)

2025年10月13日(イベント)

主 催：ピンクリボンプロジェクト

ク 県民のがんに対する理解を深める目的で、包括連携協定を締結した民間企業と協力し、以下の取組を実施した。

(ア) 県内公立高等学校の1年生にがん啓発冊子を配布

(イ) がん検診啓発チラシの配布(再掲)

(ウ) 和歌山大学祭におけるがん啓発

(エ) 和歌山県立医科大学保健看護学部の学生が主体となって企画した若年層に向けたがん啓発イベントを開催(再掲)

ケ 和歌山県広報テレビ番組(きのくに21)やラジオ番組(ラジオでお届け! 県政最前線)において、がん検診の重要性のほか、1次予防、県内のがんの医療体制や相談支援、県が実施する支援制度等について県民に周知した。

コ 職域向けのがん検診啓発チラシ等を新たに作成し、商工会議所や商工会などの経済団体を通じて、チラシを7,030社に配布するとともに、各団体が発行する会報へがんやがん検診に関する記事を掲載し、31,800の企業・個人へ配布して普及啓発を行った。

また、協会けんぽと連携し、県内企業に対して協会けんぽの健診制度の活用を呼び掛けるとともに、協会けんぽ会員約17,000社に対し、がんの知識や職域でのがん検診の取組の重要性を周知した(再掲)。

(3) がん登録の利活用の推進

ア がん対策には、がんに関係する情報の正確な把握が不可欠で、その情報から課題を見つけ、がん対策に反映させる仕組みが重要である。

そのため、がんの罹患率及び生存率等の推計等、がんに関する詳細な情報を収集・解析することにより、今後のがん対策を効果的に推進するため、以下の施策を講じた。

(ア) 「わかやま がんネット」に、全国がん登録についての情報を掲載した。

(イ) 和歌山県がん診療連携協議会がん登録部会において、県内の医療機関に対して法の趣旨や罹患者の届出手続等の周知を図るため、研修会を開催し32名が参加した。

開催日：2025年6月18日、30日

場 所：和歌山県立医科大学次世代医療研究センター

(ウ) 効率的な予後調査体制の構築や病院内で実施される院内がん登録を推進することで、がん登録の精度向上を行うため、県がん診療連携協議会がん登録部会において院内がん登録の実務者研修を実施した。

①開催日：2025年9月16日

場 所：南和歌山医療センター

受講者：10名

②開催日：2025年12月16日

場 所：日本赤十字和歌山医療センター

受講者：9名

5 その他

県のがん対策を推進するため、以下の施策を講じた。

ア 県のがん対策を検討するため、和歌山県がん対策推進委員会を開催した。

開催日：2026年2月5日

- 内 容：
- ・本県のがんの現状
 - ・がん対策施策に関する令和7年度の取組事項及び令和8年度の予算案等について
 - ・今後のがん医療提供体制の考え方について

Ⅲ 計画に掲げる全体目標の達成状況

第4次和歌山県がん対策推進計画では、2027年の75歳未満年齢調整死亡率の目標値を、全国値を下回る水準を目指して、2021年対比15%減の58.3とした。

本県の2024年の75歳未満年齢調整死亡率は72.8となり、前年に比べて悪化している。

	第4次和歌山県がん対策推進計画				2023年		2024年	
	2021年		2027年(目標)		年齢調整死亡率	全国順位	年齢調整死亡率	全国順位
	年齢調整死亡率	全国順位	年齢調整死亡率	減少率	年齢調整死亡率	全国順位	年齢調整死亡率	全国順位
和歌山県	68.6	17位	58.3	15%	69.6	11位	72.8	4位
全国	67.4	-	58.8 ※県推計	-	65.7		64.7	

※ 年齢調整死亡率は人口10万対の数値

※ 順位はワースト順

《参考資料》

1. 第4次和歌山県がん対策推進計画の概要……………29
2. 統計資料……………31

第4次和歌山県がん対策推進計画の概要

計画の趣旨

「がん対策基本法」第12条第1項の規定に基づき、各都道府県のがんの実情に合わせたがん対策の推進を図る

計画の期間

2024年度 から 2029年度 までの6年間

全体目標

「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての県民とがんの克服を目指す」

【数値目標】	2021年（現状）	2027年（目標）	目標減少率
がんの75歳未満年齢調整死亡率（人口10万人対）	68.6	58.3	15%

分野別目標

「がん予防」分野の分野別目標

がんを知り、がんを予防すること、がん検診による早期発見・早期治療を促すことで、がん罹患率・がん死亡率の減少を目指す

科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実

- がんの1次予防
 - ・生活習慣の改善
 - ・感染症対策
- がんの2次予防（がん検診）
 - ・がん検診の受診率の向上
 - ・がん検診の精度管理等
 - ・科学的根拠に基づくがん検診の実施

「がん医療」分野の分野別目標

適切な医療を受けられる体制を充実させることで、がん生存率の向上・がん死亡率の減少・全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す

患者本位で持続可能ながん医療の提供

- がん医療提供体制等
 - ・医療提供体制の均てん化・集約化
 - ・がんゲノム医療の推進
 - ・手術療法・放射線療法・薬物療法等の充実
 - ・チーム医療の推進
 - ・がんのリハビリテーションの推進
 - ・支持療法の推進
 - ・がんと診断された時からの緩和ケアの推進
 - ・妊孕性温存療法の推進
- 希少がん及び難治性がん対策
- 小児がん及びAYA世代のがん対策
- 高齢者のがん対策
- 新規医薬品、医療機器及び医療技術の速やかな医療実装

「がんとの共生」分野の分野別目標

がんになっても安心して生活し、尊厳を持って生きることのできる地域共生社会を実現することで、全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す

がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

- 相談支援及び情報提供
- 社会連携に基づく緩和ケア等のがん対策・患者支援
- がん患者等の社会的な問題への対策（サバイバーシップ支援）
 - ・就労支援
 - ・アピアランスケア
 - ・がん診断後の自殺対策
 - ・その他の社会的な問題への対策
- ライフステージに応じた療養環境への支援
 - ・小児・AYA世代への支援
 - ・高齢者への支援

これらを支える基盤の整備

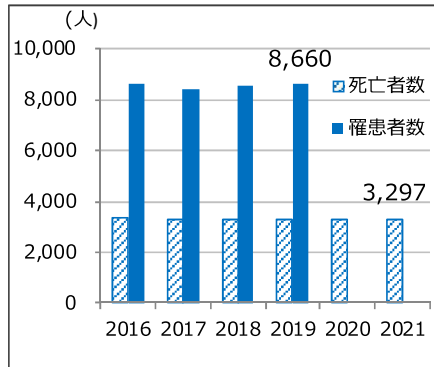
- 全ゲノム解析等の新たな技術を含む更なるがん研究の推進
- 人材育成の強化
- がん教育及びがんに関する知識の普及啓発
- がん登録の利活用の推進
- 患者・市民参画の推進
- デジタル化の推進

第4次和歌山県がん対策推進計画の概要

現 状

がんの罹患者数と死亡者数

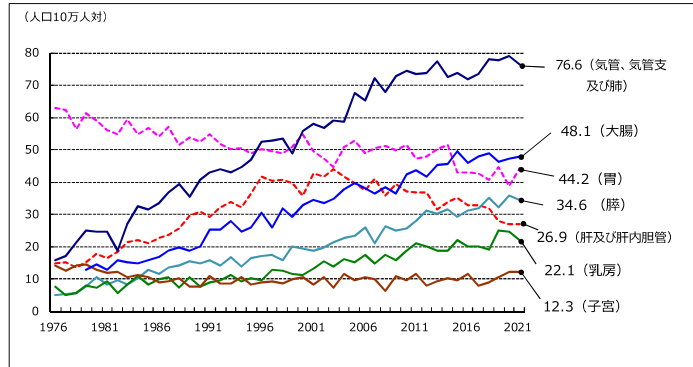
年間約87百人が がんに罹り、
約33百人が がん で亡くなっている



(出典：人口動態統計、国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん登録))

部位別粗死亡率の推移

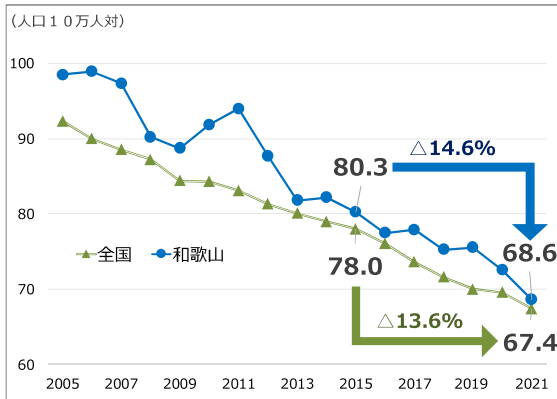
「気管、気管支及び肺」が最も多く、次いで「大腸」、「胃」と続く



(出典：人口動態統計)

がんの75歳未満年齢調整死亡率 (※)

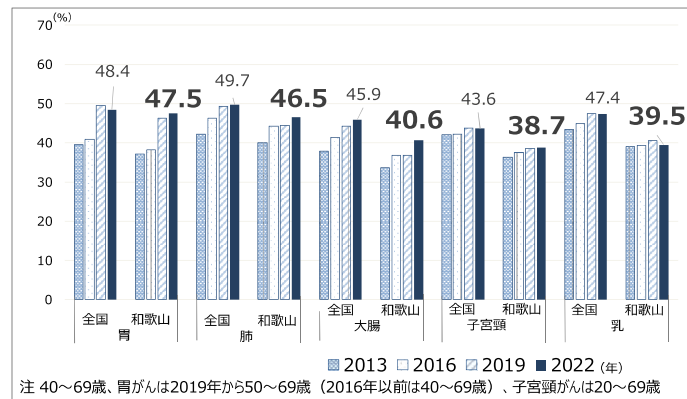
減少傾向だが、全国と比べると高い



(出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(人口動態統計))

がん検診の受診率

概ね増加傾向だが、全国と比べて低い



(出典：国民生活基礎調査)
注 40～69歳、胃がんは2019年から50～69歳 (2016年以前は40～69歳)、子宮頸がんは20～69歳

※ 年齢構成が異なる集団間等で死亡率を比較するため、集団全体の死亡率を基準となる集団の年齢構成 (基準人口) に合わせた形で算出した75歳未満の死亡率

その他の数値目標 (主なもの)

「がん予防」

- 年齢調整罹患者率 (人口10万人対) 398.8 → 減少
- 20歳以上の者の喫煙率 23.7% [例：男] → 18.9%
- がん検診の受診率 46.5% [例：肺がん検診] → 全ての検診で70%
- がん検診の精密検査受診率 82.3% [例：肺がん検診] → 全ての検診で90%

「がん医療」

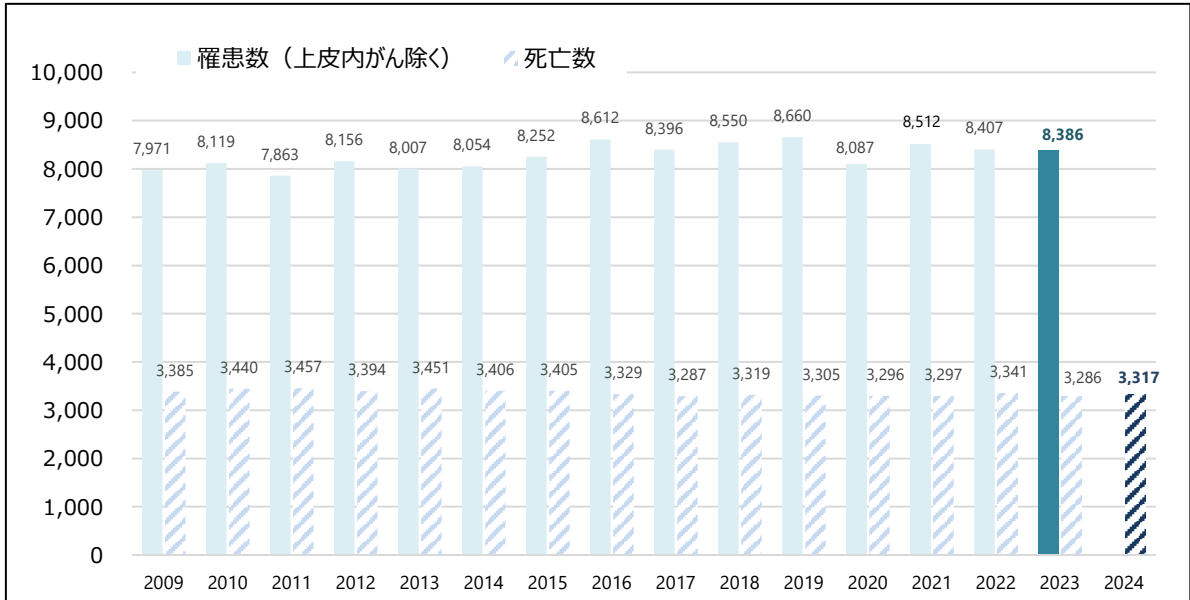
- がんの5年生存率 67.2% → 増加
- 集学的治療を実施するがん医療圏 全てのがん医療圏 → 全てのがん医療圏
- チーム医療を提供するがん医療圏 全てのがん医療圏 → 全てのがん医療圏
- 緩和ケア研修会の修了者数 2,866人 → 3,800人

「がんとの共生」

- がん相談支援センターによる相談支援を提供するがん医療圏 全てのがん医療圏 → 全てのがん医療圏
- セカンドオピニオンを内容まで知っている県民の割合 47.1% → 80%
- アピアランスケアの支援事業の実施市町村数 11/30市町村 → 全ての市町村

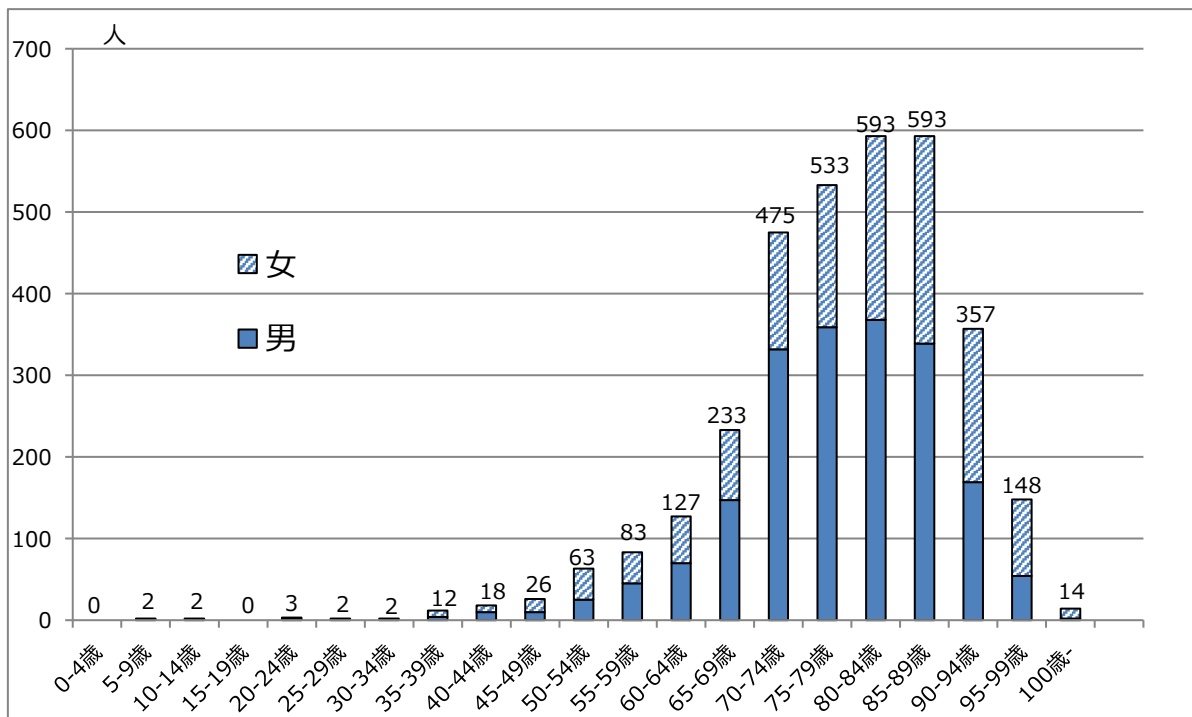
2. 統計資料

〈悪性新生物（がん）の死亡数及び罹患患者数の年次推移（和歌山県）〉



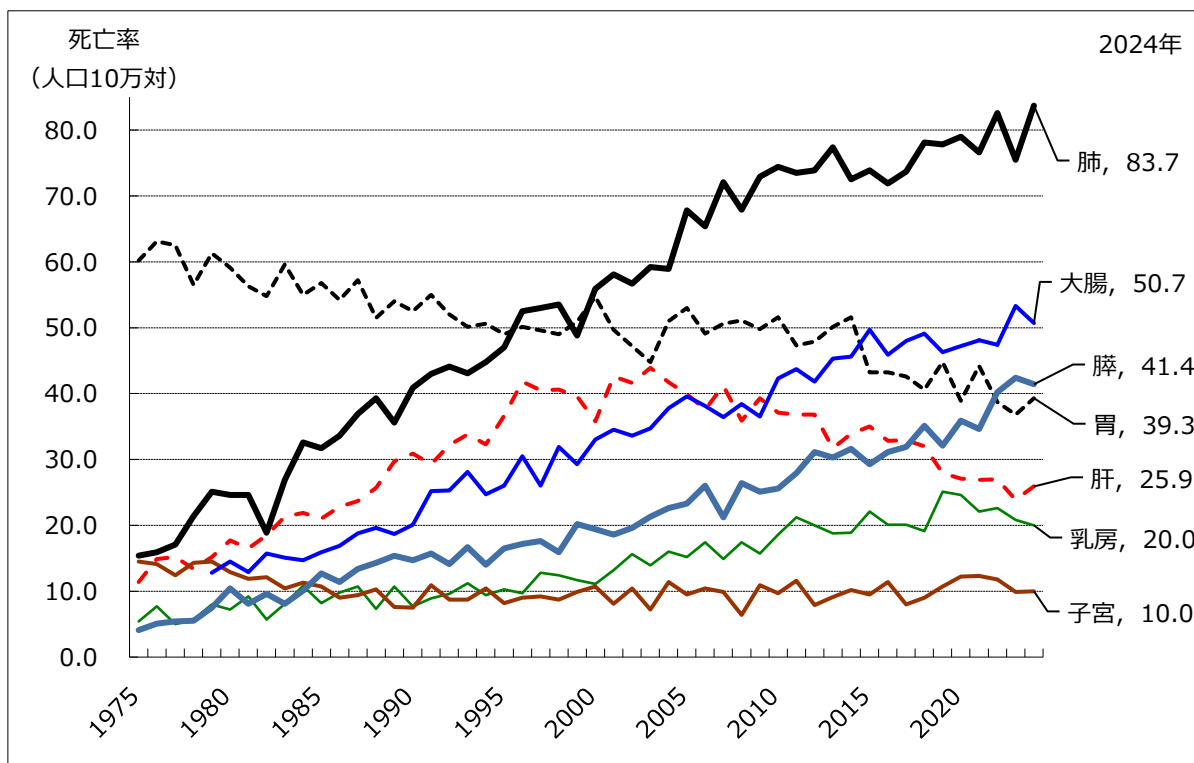
（出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（全国がん登録）、人口動態統計（確定数））

〈年齢5歳階級別悪性新生物（がん）死亡者数（和歌山県 2024年）〉



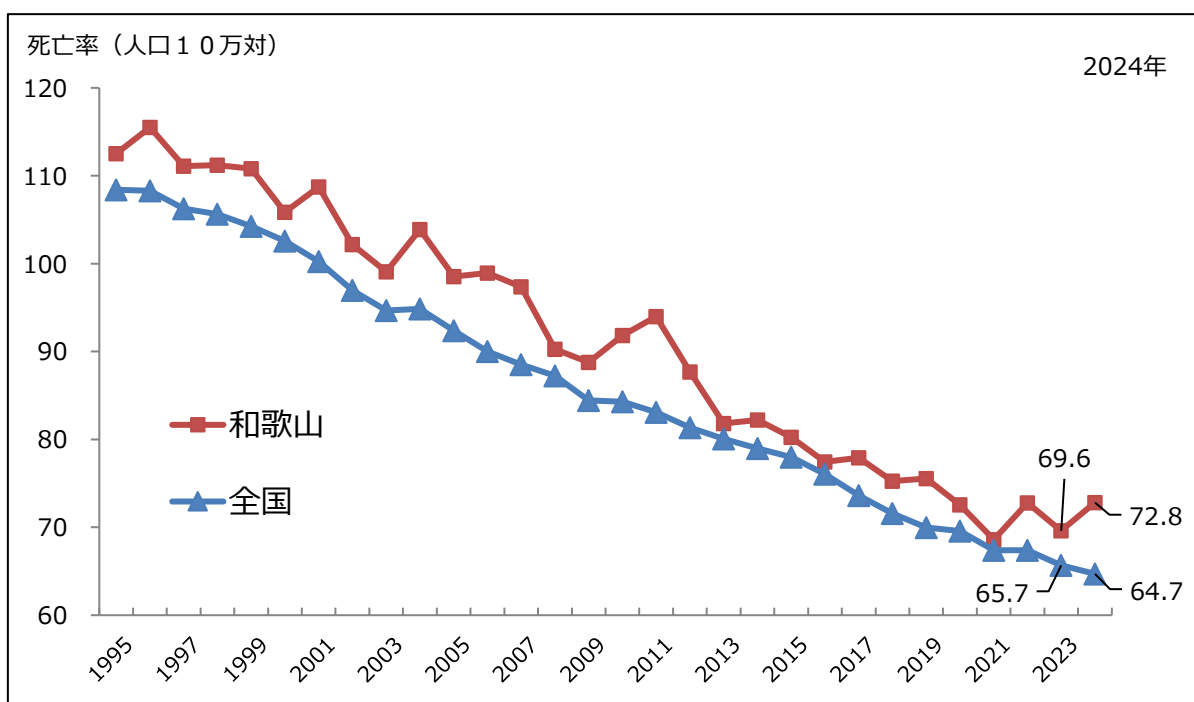
（出典：人口動態統計（確定数））

〈悪性新生物（がん）の主な部位別粗死亡率の年次推移（和歌山県）〉



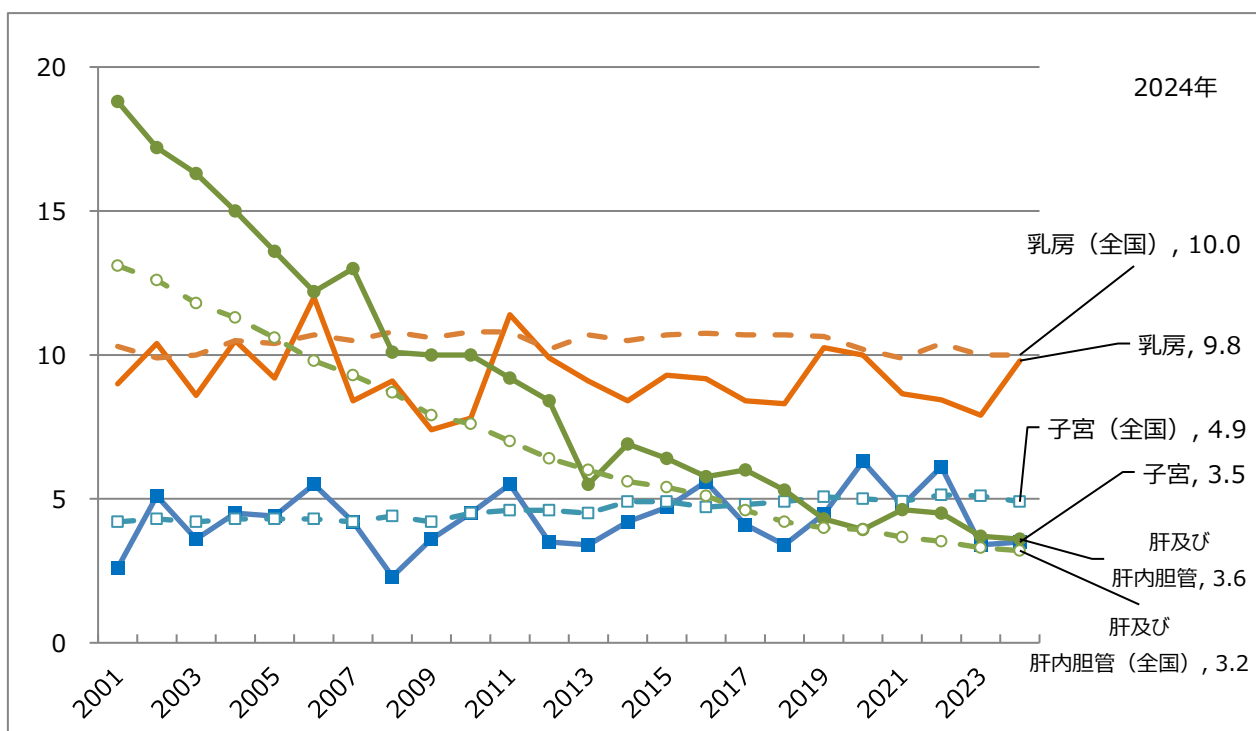
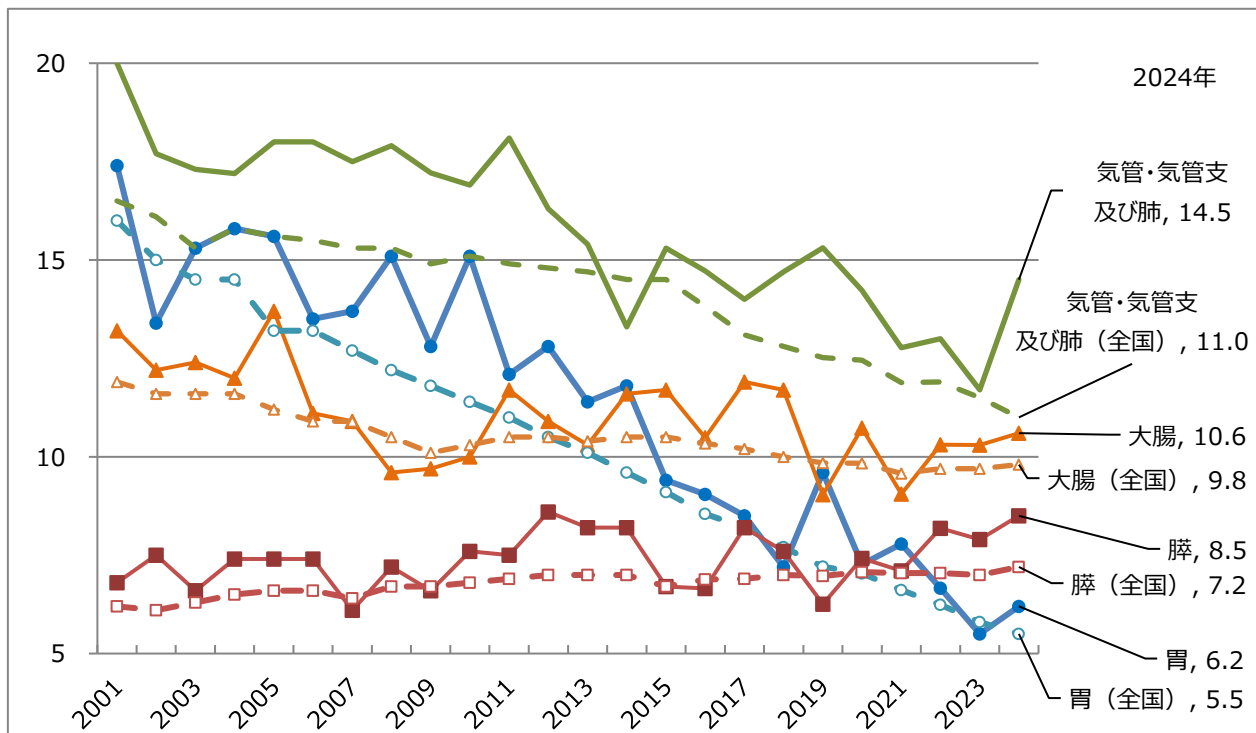
(出典：人口動態統計（確定数）)

〈悪性新生物（がん）75歳未満年齢調整死亡率 年次推移（男女計）〉



(出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(人口動態統計))

〈悪性新生物（がん）の75歳未満部位別年齢調整死亡率の年次推移（和歌山県）〉



※ 死亡率は人口10万対の数値

(出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(人口動態統計))

〈悪性新生物（がん）の75歳未満部位別年齢調整死亡率の年次推移〉

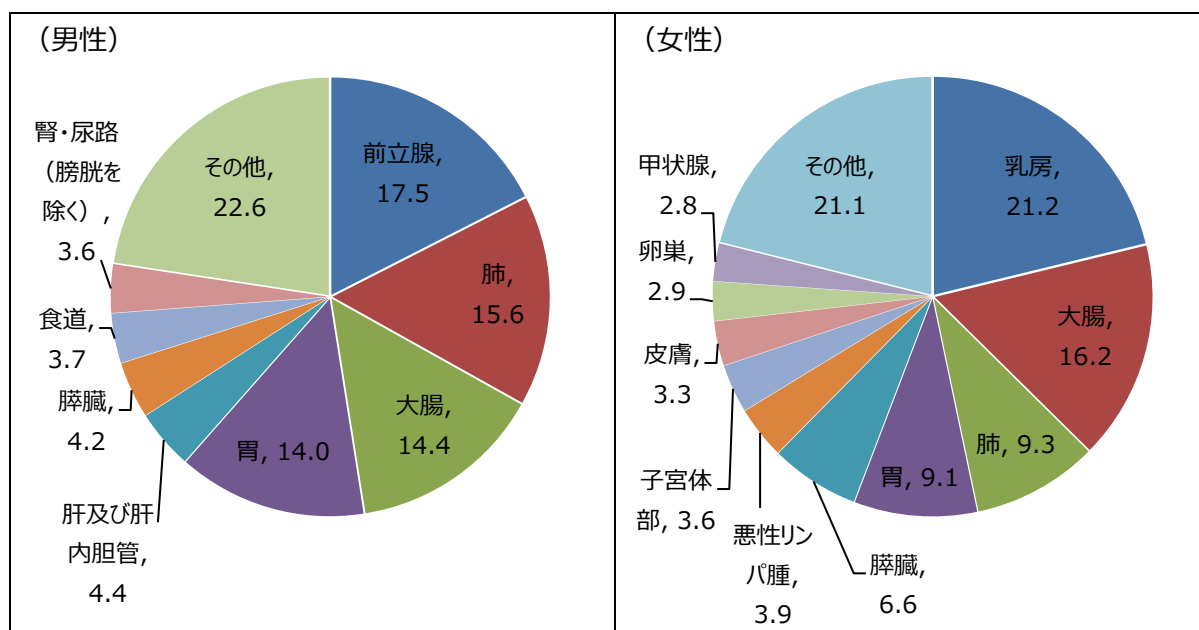
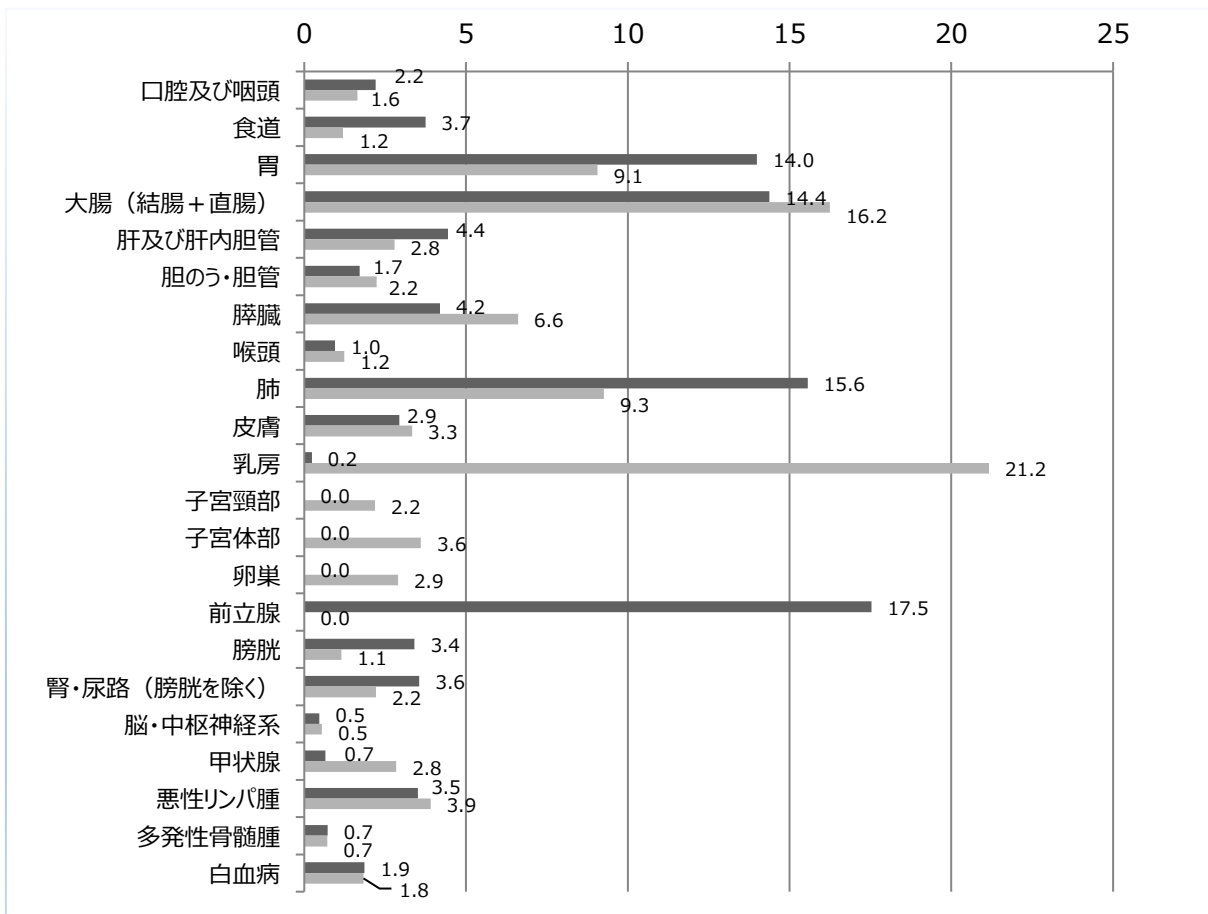
(率・ワースト順位)

		全部位		食道		胃		肝及び 肝内胆管		膵		気管・気管支 及び肺		乳房		子宮		白血病		大腸	
		死亡率	順位	死亡率	順位	死亡率	順位	死亡率	順位	死亡率	順位	死亡率	順位	死亡率	順位	死亡率	順位	死亡率	順位	死亡率	順位
令和6年 (2024)	和歌山県	72.8	4	2.8	3	6.2	11	3.6	10	8.5	2	14.5	3	9.8	22	3.5	43	1.9	34	10.6	11
	全国	64.7		2.1		5.5		3.2		7.2		11.0		10.0		4.9		2.1		9.8	
令和5年 (2023)	和歌山県	69.6	11	2.5	10	5.5	33	3.7	16	7.9	7	11.7	14	7.9	40	3.4	42	2.5	9	10.3	14
	全国	65.7		2.2		5.8		3.3		7.0		11.5		10.0		5.1		2.0		9.7	
令和4年 (2022)	和歌山県	72.8	9	3.0	3	6.7	22	4.5	6	8.2	4	13.0	7	8.4	41	6.1	6	1.9	36	10.3	17
	全国	67.4		2.4		6.2		3.5		7.0		11.9		10.4		5.1		2.2		9.7	
令和3年 (2021)	和歌山県	68.6	17	2.9	7	7.8	9	4.6	8	7.1	23	12.8	10	8.7	38	4.8	26	2.3	15	9.1	33
	全国	67.4		2.4		6.6		3.7		7.0		11.9		9.9		4.9		2.0		9.6	
令和2年 (2020)	和歌山県	72.5	12	3.1	7	7.3	20	3.9	22	7.4	13	14.2	4	10.0	20	6.3	5	1.4	45	10.7	8
	全国	69.6		2.5		7.0		3.9		7.1		12.5		10.2		5.0		2.0		9.8	
令和元年 (2019)	和歌山県	75.6	8	3.3	7	9.6	3	4.3	17	6.3	44	15.3	4	10.2	26	4.5	37	1.6	44	9.0	34
	全国	70.0		2.7		7.2		4.0		7.0		12.5		10.6		5.1		2.0		9.8	
平成30年 (2018)	和歌山県	75.2	10	3.2	6	7.2	37	5.3	5	7.6	6	14.7	3	8.3	42	3.4	47	2.7	10	11.7	2
	全国	71.6		2.7		7.7		4.2		7.0		12.8		10.7		4.9		2.2		10.0	
平成29年 (2017)	和歌山県	77.9	10	2.7	31	8.5	23	6.0	5	8.2	3	14.0	5	8.4	43	4.1	38	2.4	19	11.9	5
	全国	73.6		2.9		8.2		4.6		6.9		13.1		10.7		4.8		2.2		10.2	
平成28年 (2016)	和歌山県	77.5	18	3.5	6	9.0	16	5.8	18	6.7	30	14.7	7	9.2	42	5.6	6	2.4	19	10.5	20
	全国	76.1		3.0		8.5		5.1		6.9		13.8		10.7		4.7		2.3		10.3	
平成27年 (2015)	和歌山県	80.3	11	4.0	3	9.4	18	6.4	16	6.7	24	15.3	8	9.3	32	4.7	25	2.2	26	11.7	5
	全国	78.0		3.2		9.1		5.4		6.7		14.5		10.7		4.9		2.3		10.5	
平成26年 (2014)	和歌山県	82.2	9	3.3	15	11.8	7	6.9	10	8.2	3	13.3	38	8.4	42	4.2	33	2.4	18	11.6	4
	全国	79.0		3.2		9.6		5.6		7.0		14.5		10.5		4.9		2.3		10.5	
平成25年 (2013)	和歌山県	81.8	11	2.7	32	11.4	8	5.5	28	8.2	1	15.4	11	9.1	35	3.4	44	2.3	24	10.3	22
	全国	80.1		3.3		10.1		6.0		7.0		14.7		10.7		4.5		2.4		10.4	
平成24年 (2012)	和歌山県	87.7	4	3.0	30	12.8	3	8.4	7	8.6	2	16.3	3	9.9	22	3.5	43	1.8	43	10.9	16
	全国	81.3		3.4		10.5		6.4		7.0		14.8		10.2		4.6		2.3		10.5	

※ 死亡率は人口10万対の数値

(出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(人口動態統計))

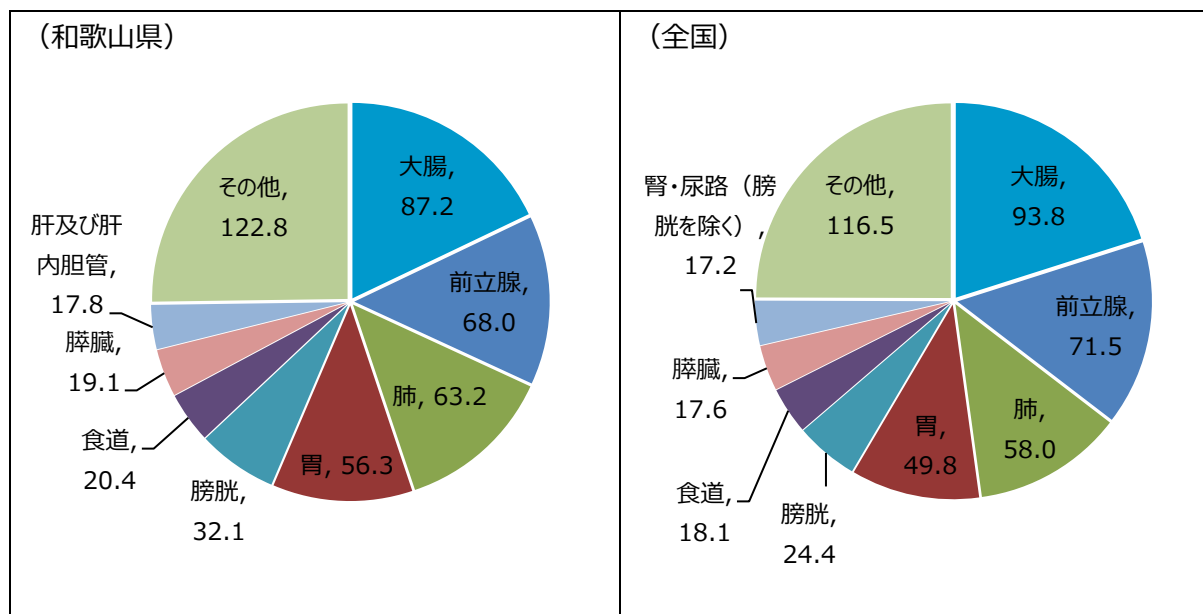
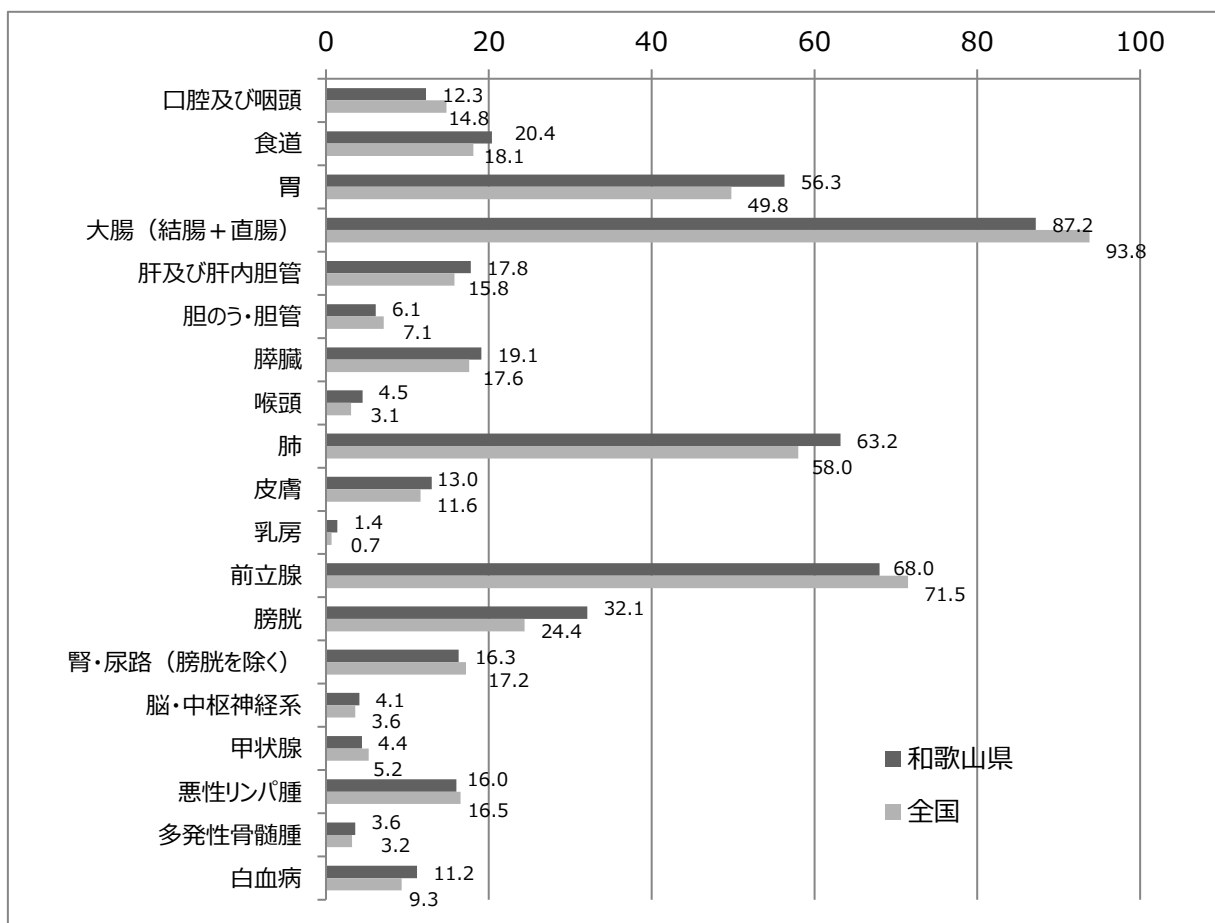
〈部位別・性別罹患割合（和歌山県 2023（令和5）年）〉



※上皮内がんを除く（出典：2023（令和5）年 全国がん登録 罹患数・率 報告）

〈部別別年齢調整罹患率（男性）（2023（令和5）年）〉

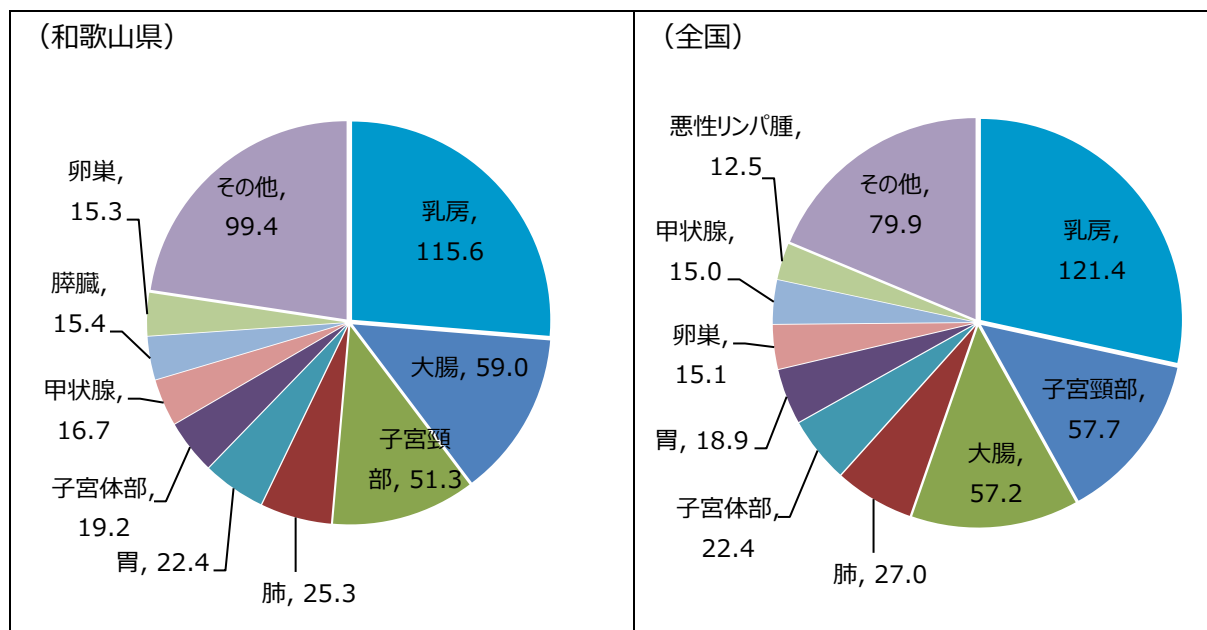
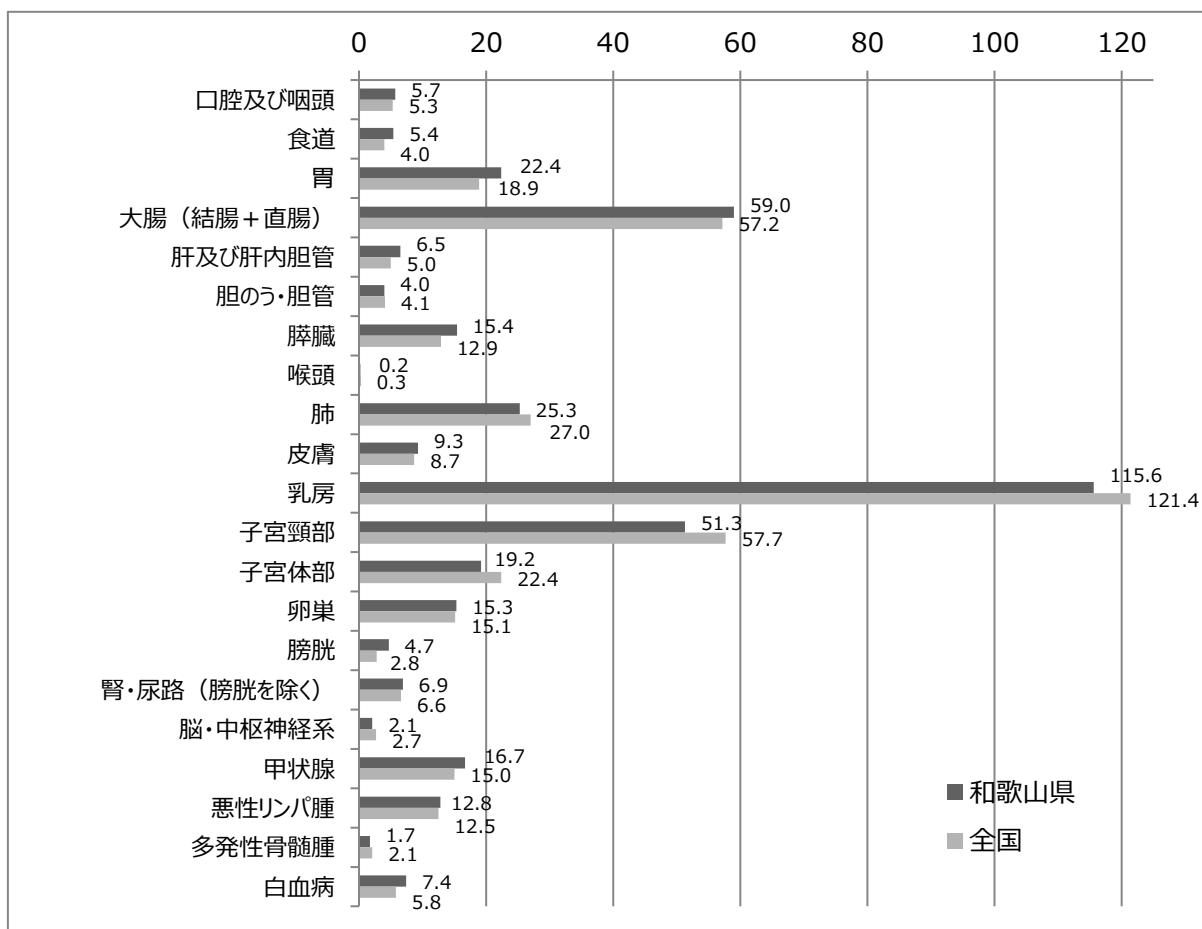
※人口10万対の数値



※上皮内がんを含む（出典：2023（令和5）年 全国がん登録 罹患数・率 報告）

〈部位別年齢調整罹患率（女性）（2023（令和5）年）〉

※人口10万対の数値

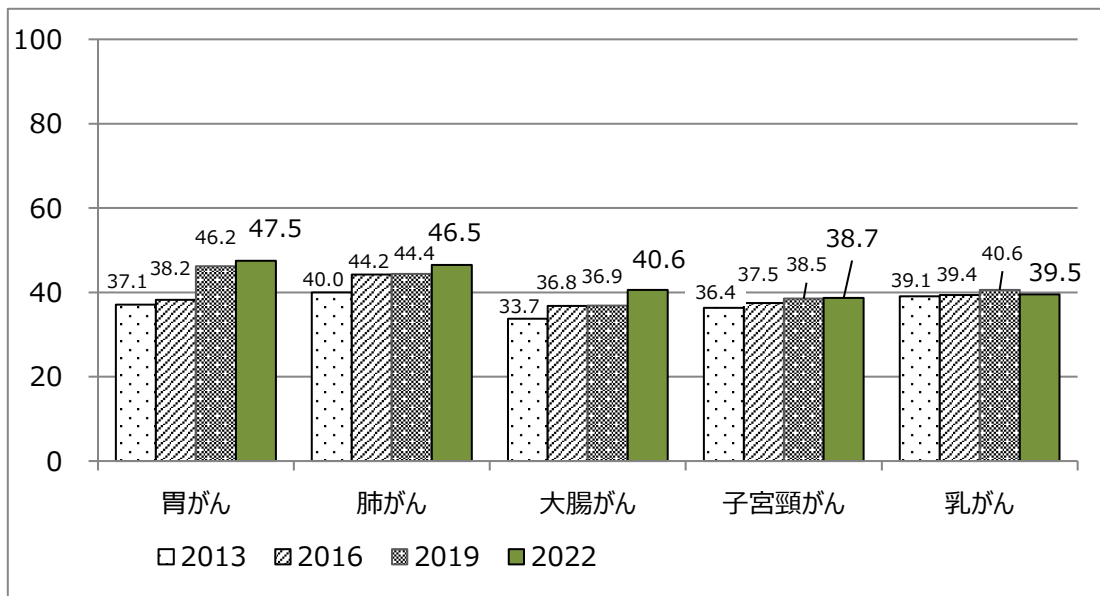


※上皮内がんを含む

（出典：2023（令和5）年 全国がん登録 罹患数・率 報告）

〈がん検診受診率の推移（和歌山県）〉

(%)



		胃がん	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん
2013	和歌山県	37.1%	40.0%	33.7%	36.4%	39.1%
	全国	39.6%	42.3%	37.9%	42.1%	43.4%
2016	和歌山県	38.2%	44.2%	36.8%	37.5%	39.4%
	全国	40.9%	46.2%	41.4%	42.3%	44.9%
2019	和歌山県	46.2%	44.4%	36.9%	38.5%	40.6%
	全国	49.5%	49.4%	44.2%	43.7%	47.4%
2022	和歌山県	47.5%	46.5%	40.6%	38.7%	39.5%
	全国	48.4%	49.7%	45.9%	43.6%	47.4%

(出典) 国民生活基礎調査 40～69歳、胃がんは2019年から50～69歳（2016年以前は40～69歳）、子宮頸がんは20～69歳

※国民生活基礎調査による受診率は、市区町村が行うがん検診のほか、健診等（健康診断、健康診査及び人間ドック）で受診したものを含んでいる

(参考：地域保健・健康増進事業報告 がん検診受診率 69歳以下)

		胃がん	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん
2024	和歌山県	17.1%	19.1%	18.0%	18.0%	21.0%
	全国	12.9%	16.1%	16.9%	17.5%	19.8%

※地域保健・健康増進事業報告による受診率：国民健康保険被保険者のがん検診受診者／がん検診対象の国民健康保険被保険者